

第 116 回グリーンサポート隊活動報告

1. 日時：2021. 5. 16(日)午前9時～11時
2. 場所：C・D地区（トラスト地）
3. 参加者：30名（役場3名含む）他に埼玉県電気工事組合志木支部 16名

・ 5月12日の活動

本日（5/16）の作業に先立ち、5月12日（水）にカシノナガキクイムシ被害を受けて、伐採出来ていなかった残りの樹木の伐採とその後搬出するため2mの長さにチェーンソーを使って切断する作業を実施した。また、当日はトラスト協会で粉砕機を持ち込んでくれたので、搬出出来ない枝の部分はチップにした後、散策路へ散布した。当日は、県みどり自然課、川越農林振興センター、寄居林業事務所の職員の方が被害状況など現地視察で来所。昼近くには国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 北島農学博士も来所し、トラスト地の被害状況の視察と今後の観察方法、被害樹木の対処方法などについて現地で講義を受けた。カシノナガキクイムシ被害の関係者が大勢集まり、総合的に話を聞くことができ大変参考になった。伐採せずに残っている被害樹木のところで状況についての説明と簡易措置を実施した。12日の資料などは活動日に会員へ配布して今後の林内活動時に被害の有無を観察するようにした。

（カシノナガキクイムシ被害とは）

カシノナガキクイムシは繁殖のためにナラ系の樹木に潜入して産卵、この時に病原菌のナラ菌を持ち込む。ナラ菌は孔道を伝って樹木内にまん延し、樹木の細胞に害を与える。ナラ菌が感染した部分に細胞が死ぬと導管が目詰まりを起こすため通水障害を起こし、この結果樹木が枯れていく。樹木内で繁殖したカシノナガキクイムシの成虫は、6月、8月頃に成長羽化し別の樹木に飛び出す。この時にナラ菌が持ち出され被害が広がっていく。



カシノナガキクイムシ



現地視察前に関係者によるミーティング実施



被害樹木の調査（この樹木は当面経過観察）



伐採樹木に枝などを粉砕機でチップ化して散策路に散布する

・ 5月16日整備活動

本日の活動は、C・D地区の整備活動を実施、作業内容は、カシノナガキクイムシ被害樹木伐採や一般の強風により林内に散乱している枝を収集、搬出する作業。電気工事組合の方には日頃の業務で熟練している枯損木の伐採（3本枯れ木があった）をお願いした。これから夏に向けて児童が林の中に入ってくることが想定されることから事前に危険なものを除去しておくことにも留意する必要がある。最近では林内を散策する人が多くなっているが以前のようなペットボトルの投げ捨てなどは少なくなっている。

虫採集の季節になったことから子供連れでロープ内に入る人が増えている。林内には貴重な植物も生育していることから踏みつけられたり、枝などで地面を折り返すケースが増えているので何らかし注意表示が必要。

参加者が多かったことから予定の作業は順調に進み、終わりごろに少し雨が降ってきたこともあり予定時間より早めに終了した。その間、いま見ることができる貴重な花を皆さんに見ていただきなど林の現況を楽しんでもらった。



この時期、林内で多く見ることができるフタリシズカ



枯れた樹木の伐採作業



枝拾いをしています



被害樹木の伐採で空間ができたところに植樹しました。
今年の11月頃には林内の空間が出来たところへ植樹を実施する予定にしています。

次回活動は、6月20日（日）毎年1回活動をしている唐沢林の整備活動を予定しています。